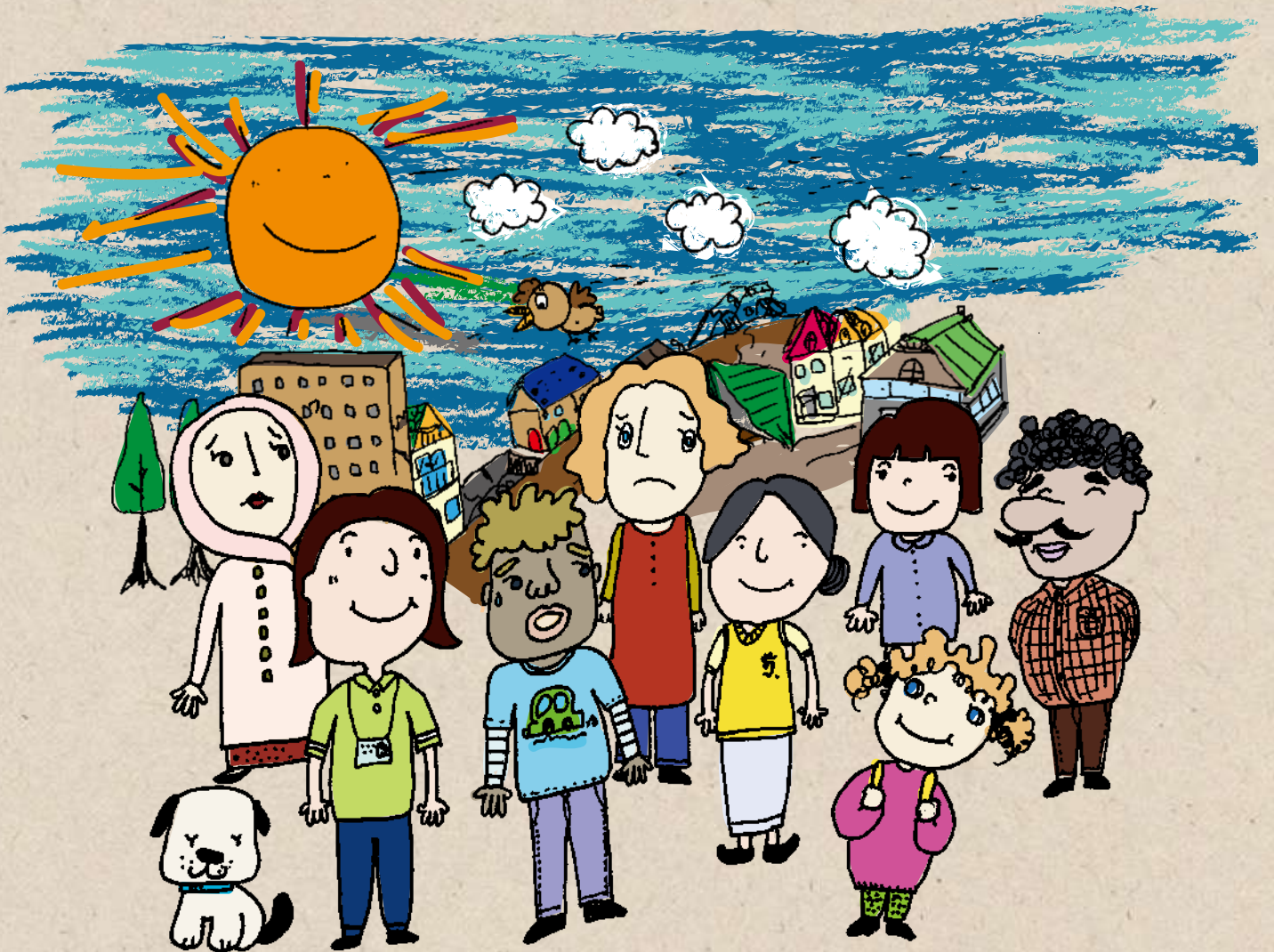


外国人編

災害時の スペシャルニーズ 支援ハンドブック



災害時に孤立する人を生み出さないために

災害時、外国人に安心を届けるために

災害が発生すると、あまり被災経験のない外国人は日本人以上に恐怖を感じます。災害関連の難しい日本語がわからなくて情報が入らなかったり、限られた日常のコミュニティから断絶され孤立したりして、ますます不安が募ります。

近年では、大きな災害時には災害ボランティアセンターが立ち上がり、多くのボランティアが活動するようになりました。しかし被災した市民の中でも、多数派の生活支援ニーズが優先され、外国人など「災害時に特別な配慮を必要とする人」への支援は、どうしても後回しになりがちです。行政機関自体も被災する中で業務に追われ、外国人への十分な支援は期待できません。

一方、普段から外国人支援に取り組む日本語教室のボランティアや NPO、各種グループ・団体においては、まだまだ災害時のことまでは考えが及んでいないのが現状です。

本ハンドブックでは、平時から外国人支援に取り組む団体が、災害時における特別な配慮の内容をはじめ、危機管理のあり方、外部支援者の生かし方などをまとめました。そして外国人が支援を受けるだけの存在ではなく、「自助・協助・共助」の主体としても活躍することを願っています。行政などの公助については、他の資料などをご参照ください。

なお、本書は 2016 ～ 2018 年度に実施した「災害時のスペシャルニーズ支援事業」の成果をまとめたものです。事業実施にあたっては、大阪府福祉基金地域福祉振興助成金事業として 3 年間採択していただきました。また多くの方に研究会やアンケート調査などにご協力いただき、知見を提供していただきました。心よりお礼申し上げます。



目次

災害時の困りごと、外国人当事者の声・・・・・・ 3

事例から考える

 災害時に外国人が直面する状況と対応・・・・・・ 6

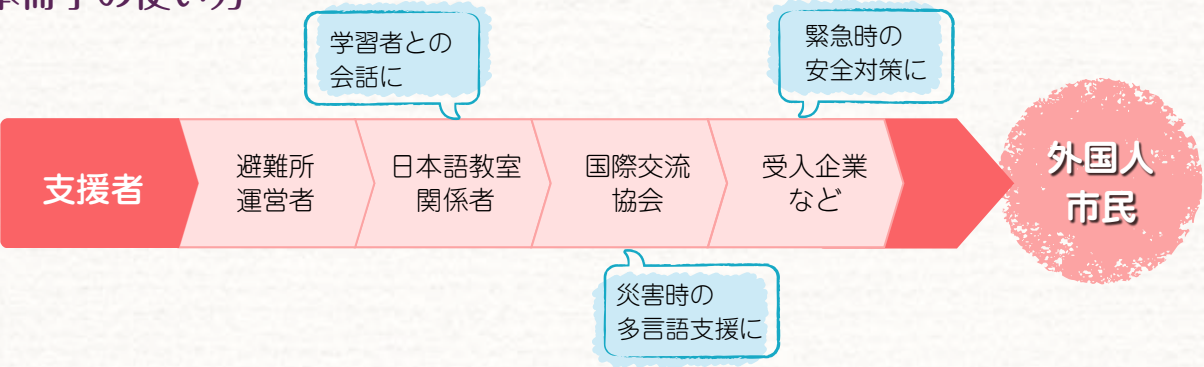
私たちができること・・・・・・ 8

地域でどんな役割分担が必要か・・・・・・ 9

災害時に使用できるツールや資料・・・・・・ 11

災害が起こった時に使える「やさしい日本語」・・・ 12

本冊子の使い方



災害時の困りごと、外国人当事者の声

＜災害前に＞

災害に関する知識が足りない

- ・地震の時にどうすればよいかわからない、困った時にどこに相談をすればよいかわからない。
- ・余震について、次の地震はいつ起こるのか知りたい。
- ・友人からパチンコ屋に行くといわれた（椅子がいっぱいある、建物が鉄筋で壊れにくい）。本当？

字が読めない

- ・（そもそも）学校からの連絡のメールや手紙などの字が読めない。

防災への取り組み経験が不足

- ・ガスの復旧方法について知らなかった。
- ・防災グッズに関する知識がない。
- ・非常用品などを売っている店を知らない。
- ・ある程度日本語ができる人でも、聞きえない災害用語はわからない。

＜災害が起きてから＞

災害時に「情報」が得られない

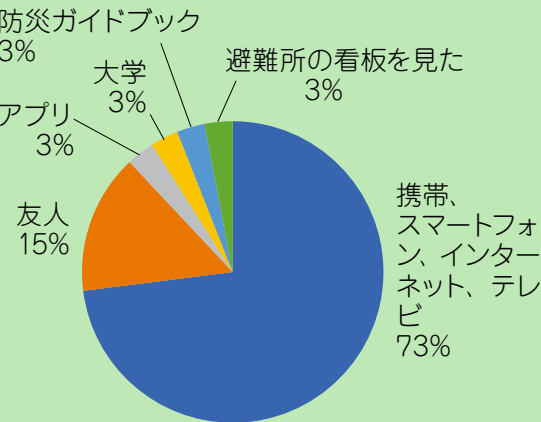
- 【漢字が読めない】
 - ・漢字が読めないのでテレビやメール、手紙などの字が読めない。
- 【地図が読めない】
 - ・母国では地図を見る習慣がない。
 - ・地図の中の文字は漢字ばかりでわからない。
- 【母語での災害情報がない】
 - ・母語で情報を得られない。
 - ・領事館のサイトを見ても、災害情報がない。
- 【何を言っているかわからない】
 - ・テレビやラジオなどをつけても何を言っているかわからない。あいまいな指示（例：すみやかに安全を確保してください）は、具体的にどうすればよいかわからず、ただ恐怖心がおおられる。
 - ・近所の日本人が話していることがわからない。



スペインではほとんど地震がありません。なので、地震が起きたら何をすればいいのか、まったくわかりません・・・。

情報源は限られる

外国人はどうやって情報を得たか



- 携帯電話やスマートフォンが情報源
 - ・家にはテレビやラジオがない。携帯電話だけで情報が得られるかが心配。
 - ・ルームメイトの携帯やテレビで情報を得た。
 - ・いつもスマートフォンでLINE だけを使っている。LINE が安否確認など連絡手段として活躍した。

- 日本人の家族や知人が情報源
 - ・日本人の夫や妻から情報を得た。
 - ・日本人の友人からいろいろと教えてもらった。
 - ・同じ国同士のママ友ネットワークで情報を得た。

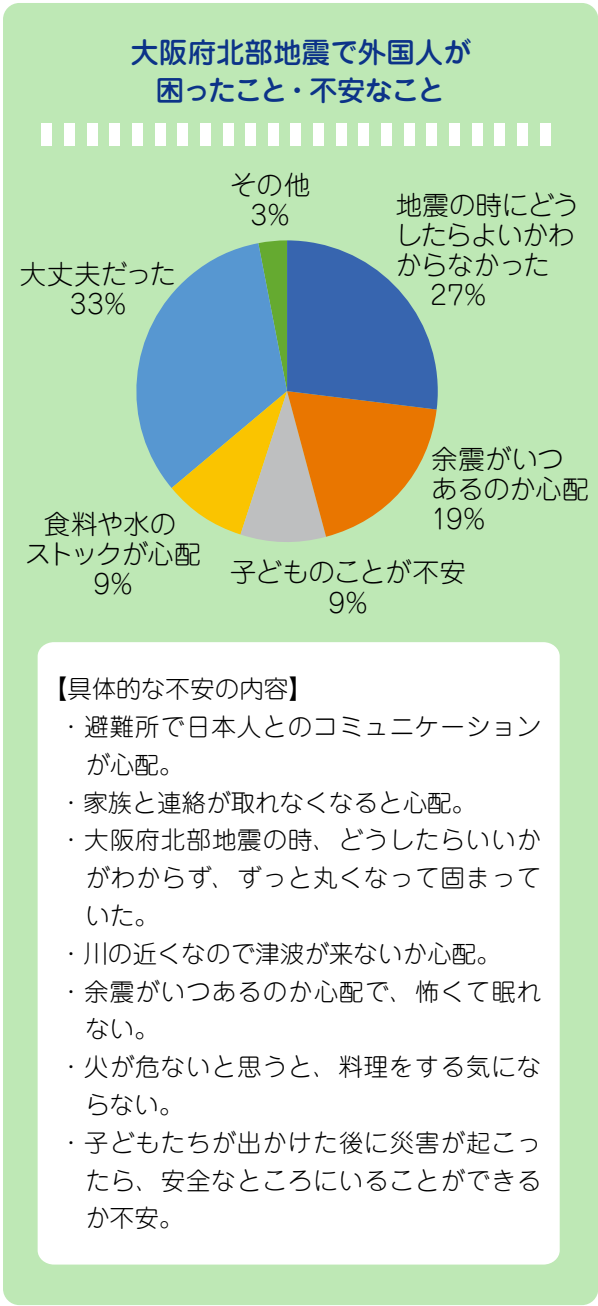
- 知りたかった情報
 - ・「子どもの幼稚園が休みになるかもしれない」ということも知らなかった。
 - ・自分の国へ帰るのにどうしたらよいかわからない。
 - ・学校への連絡はどうしたらよいかわからない。
 - ・大使館の情報を知りたかった。



災害時に取るべき避難行動がわからない

- ・避難や避難所に関する情報などを受け取っても、それまでに知識や心構えがないと動けない（特に地震の経験がなく、家族に日本人がいない場合は想像以上に不安を抱えている）。
- ・避難場所はどこか、避難する時に何をもっていけばよいかわからない。
- ・外国人が行くことができる避難場所はあるのか？
- ・いざという時に、こういった順番でどう行動をしたらよいのか？

不安に感じていること



約70%の人が戸惑いや不安、心配に直面しています。地震に対する情報や知識、経験が十分ではないためにどうしたらいいかわからなかった人が約30%と多く、余震を心配に思う人が約20%。中には眠れなくなっていたり、不安のため火を使うことができなくなっていたりする人もいました。

大丈夫だったという人も約30%いますが、その人たちは出身地でも地震を経験しているか、日本人の家族などがいて情報を得ることができた人たちでした。



出典及び参考にした調査：

- ◆にほんごサポートひまわり会：2018年度地域で外国人とともに防災について考えるプロジェクト
- ①外国人意識アンケート：2018年6月～7月末。回答数64人（ベトナム27人、中国19人、台湾4人、韓国・朝鮮7人、カンボジア1人、タイ1人、ブラジル1人、イギリス1人、その他3人）
- ②阿倍野防災センター見学時の感想：2018年7月15日（外国人25人、日本人2人、スタッフ20人）
※外国人は中国人13人、ベトナム人10人、韓国1人、シエラレオネ人1人
- ③「外国人のための防災教室&外国人と学ぶ防災教室」開催時の感想：2018年8月19日（外国人成人17人+子ども4人、通訳4人、日本人18人、スタッフ11人）
※外国人は中国人11人、ベトナム人3人、カンボジア人3人と子ども4人
- ◆公益財団法人とよなが国際交流協会
- 【実施時期】2018年6月19日～28日
- 【アンケート回答数／配布数】日本語学習者52人（協力：とよながにほんご木ひる、金あさ、もっともつつかえるにほんご、千里にほんご）

善意が相手の求めと一致するとは限らない

日本では、緊急時において必要な情報のみ簡潔に素早く話そうとするため、情報に優先順位をつけたうえで不要だと感じた情報は削る傾向にあります。しかし、外国人当事者にとっては、情報が削られること自体を問題視する声もあり、よく議論が起きました。

日本人と外国人当事者の見解の違いにこそ、ヒントがあります。緊急時はリーダーの指示に従うことも必要ですが、状況が落ち着いたら、必ずその議論の検証を行いましょう。特に外国人当事者は少数でいるため、自分の意見を言うことが難しく、日本人側がきちんと相手の気持ちを聴こうとする姿勢を示すことが重要です。



外国人専用の避難所？

「外国人専用の避難所をつくるべき」との声があります。外国人のことを考えての発言だと思いますが、隔離や排除につながる危険性もあり、注意が必要です。

ほんの少し歩み寄ることができれば、外国人は避難所でさまざまな役割を担ってもらえる存在になります。熊本市のように、外国人に配慮した避難所があることは理想ですが、やはりどこの避難所であっても、互いに助け合いながら共に過ごすことができればよいのではないのでしょうか？



「日本語能力、友人の有無」で変わる対応

日本語能力、または日本に詳しい友人の有無	特徴的な背景	地震に対する対応
○ わかる or 日本に詳しい友人がいる	・安否確認が早い（誰かが気にかけてくれる）。家族や職場など、ひとりぼっちにならない環境がある。 ・地震に関する知識、情報がストックされている。	・普段から備えがある。 ・知識があったり、わからないことをすぐ聞ける環境があるので、落ち着いて行動できる。
× わからない or 日本に詳しい友人がいない	・全員が借家暮らし（そのうち約80%は独り暮らし）。多国籍。最も多かった在留資格は「留学」「家族滞在」だが、「研修」「技能実習」も。 ・知識や情報が少なく不安が増殖しがち。	・怖くて不眠を訴えるなどの症状。 ・パニックになり、大阪を離れたり、帰国したりする人も。 ・ガスメーターの復旧ボタンがわからない、などのトラブル多数。

箕面市国際交流協会

事例紹介

大阪府北部地震
当日

箕面市では震度6弱を観測しました。協会は元々休館日だったので、出勤したのは管理職と職員3人のみ。協会ウェブサイトや多言語 facebook ページ「Minoh Multilingual」に「やさしい日本語」と英語の2言語で情報をアップしました。

2日目

やさしい日本語と英語に加え、中国語、韓国・朝鮮語、ポルトガル語、ベトナム語の6言語で情報提供をしました。
また余震で多数の外国人が避難していることを聞き、各言語を話せる職員が同行して箕面市内の避難所を訪問しました。そこで相談を受けたり、多言語情報の掲示（QRコードで詳細はウェブを見てもらう場合も）をしたりしました。

【エピソード】

豊川南小学校避難所では、避難者の約9割が外国人（多くが大阪大学に通う留学生）という状況で、地元の避難所運営者はどうコミュニケーションしていいかわからず困惑していました。そこで「この中で日本語を話せる人は出てきてください」と呼びかけたところ、4割ぐらいの人が出てきてくれました。その中で言語別にリーダーを決めてもらい、日本語のアナウンスを各言語に通訳してもらう通訳リーダーをお願いしました。



避難所を巡回し各言語でアナウンス

外国籍の当事者が
強みに

ポイント1

職員17人のうち、外国籍の当事者が6人いました。日本人職員もそれぞれ異なる言語を使え、多様性が強みになりました。

中国語2人（ネイティブ・中級）、韓国・朝鮮語3人（ネイティブ・ネイティブ級・中級）、英語5人（ネイティブ級）、ポルトガル語（ネイティブ）、ロシア語（ネイティブ）、モンゴル語（ネイティブ）、タイ語（ネイティブ級）、ヒンディー語（ネイティブ級）、トルコ語（ネイティブ級）

情報班と巡回班に
分かれて迅速に対応

ポイント2

サポート体制は、事務所で情報収集&翻訳・発信を行う「多言語情報班」と対面でニーズを把握する「避難所巡回班」の2班で構成。発災前は、多言語相談スタッフなどのボランティアにも活動してもらう想定でしたが、家族の対応などで活動は困難でした。しかし職員は現場では迅速に対応することができました。



ガス安全装置の復旧作業

「国際交流協会ネットワークおおさか」などでの日常の取り組みが生きた

日常の取り組み

- ・大阪府内9つの国際交流協会と大阪府、多文化共生マネージャー全国協議会が連なる「国際交流協会ネットワークおおさか」が主催し、ゆるやかなつながりの中で、多言語支援センター設置訓練を実施。
- ・東日本大震災の際に滋賀県に設置された「東日本大震災多言語支援センター」へ中国語翻訳を担当したり、相談員を派遣。
- ・仙台国際交流協会の「災害時多言語支援センター」の取り組みや、仙台市の「片平地区連合町会会長」から話を聴く。
- ・「やさしい日本語」のワークショップ、島根県や仙台市と連携した翻訳依頼ワーク、4言語での災害時ブログの立ち上げ。

大阪府北部地震での対応

大阪府内の国際交流協会が交代でスタッフを派遣し、茨木市の支援を約1週間行いました。市役所で外国人向けの相談窓口担当を務めたり、情報を翻訳して茨木市のウェブサイトで発信したりしました。

今後の支援の方向性

現 状	方向性
災害対策本部や行政の担当部局、避難所では、外国人と見ただけでコミュニケーションが止まってしまうことがあった。	行政とも連携し、日本語や「やさしい日本語」で話すことができることを伝える。
地域と連携する体制が充分ではなかった。	大阪大学（主に留学生担当部署）や地区防災委員会と普段から連携・相談する。
災害対策本部から直に情報や支援が来ず、間に担当課が入り時間がかかった。	「災害時多言語支援センター」設置協定を行政と締結する。
災害時マニュアルがあるだけでは、読まれなかったり使われなかったりした。	訓練をしながらマニュアルを点検、見直しをする。
人材がもっと多く必要。人材は多いが登録できていない。	企業や団体に呼びかけて外国人支援ボランティアの登録を促進する。

コラム「大阪府北部地震を通して学んだこと」

災害時の外国人支援に欠かせない課題に、「デマへの対応」があります。「公園にシマウマが現れた」や、「木曜日にマグニチュード10の本震がくる」という類のものから、「在日外国人が窃盗をはたらいているので注意してください」というヘイト発言に至るものまで、さまざまなデマが流れます。関東大震災で、多くの朝鮮半島からの移住者などが虐殺された事実は、ほとんどの日本人が忘れていますが、多くの外国人当事者は、この種のデマに接し、さらに不安感をつのらせていることを忘れてはならないと思います。平時から、地域防災計画にもデマへの対応策を位置付けておく必要があると思います。

また、「おおさか防災ネット」など機械翻訳を用いたウェブサイトは、精度が十分でないため、同じページに日本語と外国語が見られるようにすると、誤読がある程度は避けられ、効果的です。さらに、行政のホームページなどで地名や学校名などを挙げる場合は、必ず読み方も併記しておくことが必要です。

今回の地震では、本書p11にあるような、既存の多言語支援ツールはまったく使っていませんでしたが、普段から防災訓練などで活用しておけば、いざという時にとても役立つと思います。

岩城あすかさん（公益財団法人箕面市国際交流協会）

3日目以降

行政と協議・連携しつつ、避難所巡回と相談対応を継続しました。また「ガスの元栓の復旧方法がわからない」などのニーズも入ってきて、アウトリーチの範囲を広げていきました。

外国人に安心を届けるために、私たちができること

「やさしい日本語」を使う



日頃の生活で、知らず知らずのうちに難しい日本語を使っていることもあります。日本語は文章が長く、時候の挨拶など伝えたい内容以外の言葉が入っている場合が多いです。不要な言葉を省き、「わかりやすさ」が大事と考え、日頃の会話から「やさしい日本語」を使うように心がけましょう。

コミュニケーションをとるためには、外国人が日本語を学ぶだけでなく、日本人が外国人に接する姿勢を変えることが必要です。外国語で話さなくても、「やさしい日本語」で多くのことは外国人に伝わります。

※ P12 ～ 「やさしい日本語」を参照

日常的に交流し、つながりをつくる



日常的、定期的に顔を合わせる場があると、いざという時の情報源になったり、頼り頼られる関係になったり、安心感を得られる場や相手となります。地域日本語教室、外国人支援を行う国際交流協会やNPO、外国人当事者のグループ、教会、エスニックレストランなどが交流の場になっています。

また小学校区単位の防災活動や地域のお祭りやイベント、自治会・町内会などでも、楽しく交流を深めていきましょう。外国人は日本人と交流が少ない人も多く、普段から交流できるような方法を自治会や町内会などで考えていくことが必要です。

日本人の当たり前は、外国人にとって当たり前ではないこともある



外国人の中でも出身や家族構成によって災害に対する予備知識や心構えが大きく異なり、それらが無いと不安や心配が大きくなります。「漢字が読める」とか「地図が読める」というちょっとした条件の差も、非常時には大きな格差となります。身近な外国人といっしょに、地震や災害に対する基礎知識を学び、心構えや対策を行う機会づくりが大切です。

災害時は、災害に対する基礎知識や経験が少ないことを前提に、まずは不安なことが何かを聴き、寄り添う気持ちで接しましょう。

いざという時の連絡先や頼ることができる相手を決めておく

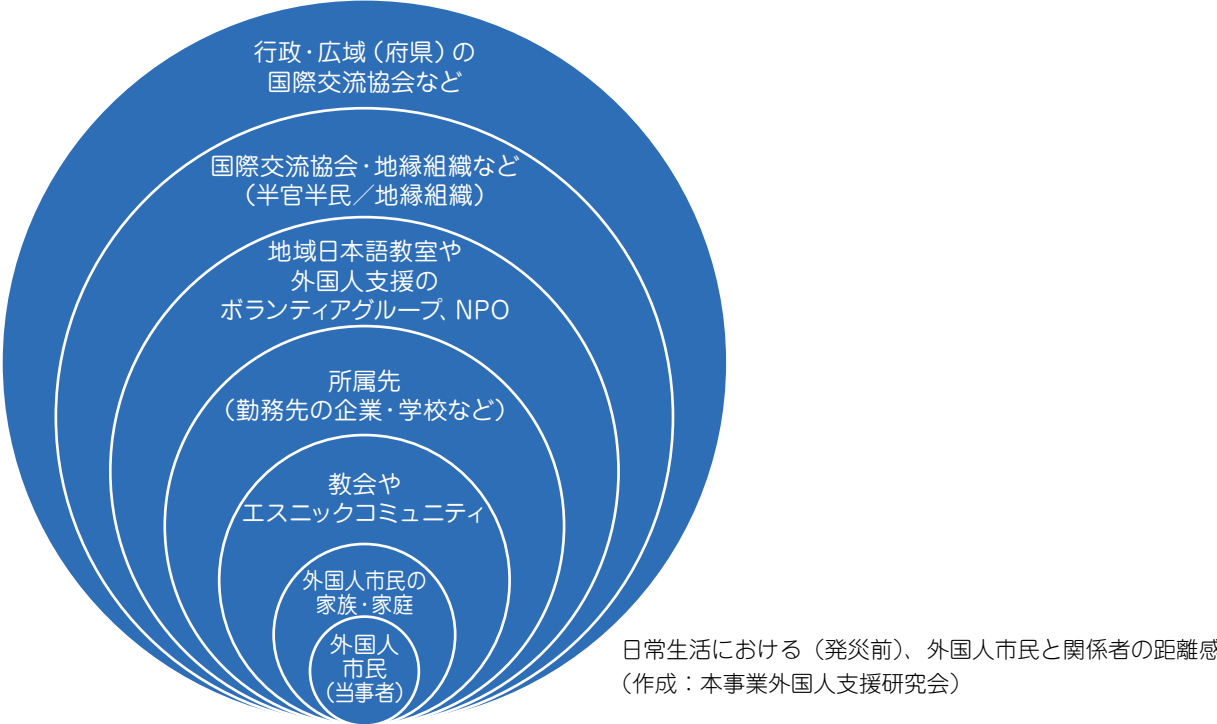


外国人が来ることが想定されている避難所運営者に対して、「困った時にどこに相談すればよいか」を事前に決めておくことが有効です。外国人の支援に日頃から取り組んでいる国際交流協会やNPOなどが頼りになります。

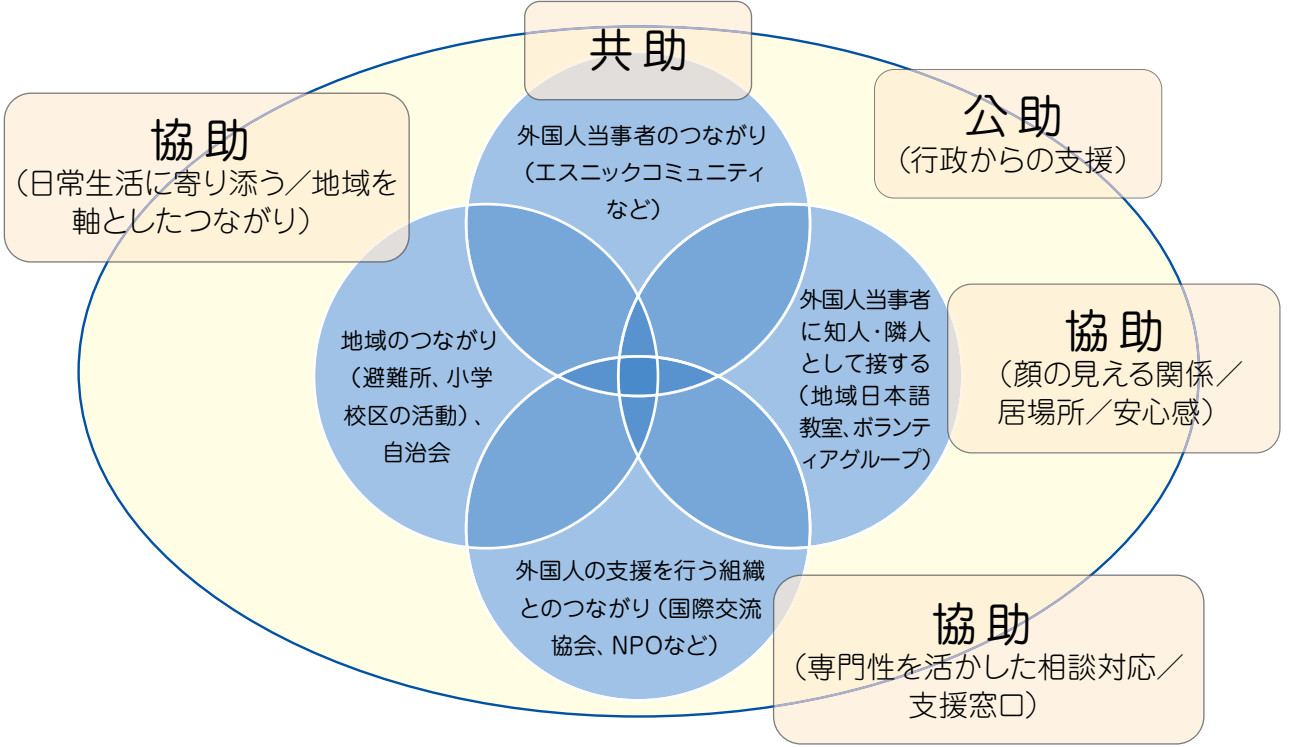
避難所運営者自身が学びを積み重ねることも必要ですが、起こりうるすべての状況に対応するのは困難です。外国人に安心を届けるためには、支援者が受援力（じゅえんりょく）を高めて他人に頼ることが重要です。

外国人に安心を届けるために、地域でどんな役割分担が必要か

外国人にとって、どんなコミュニティや支援組織・機関が身近にあるかは、地域によって異なる部分もありますが、大まかには以下のような距離感が基本と考えることができます。



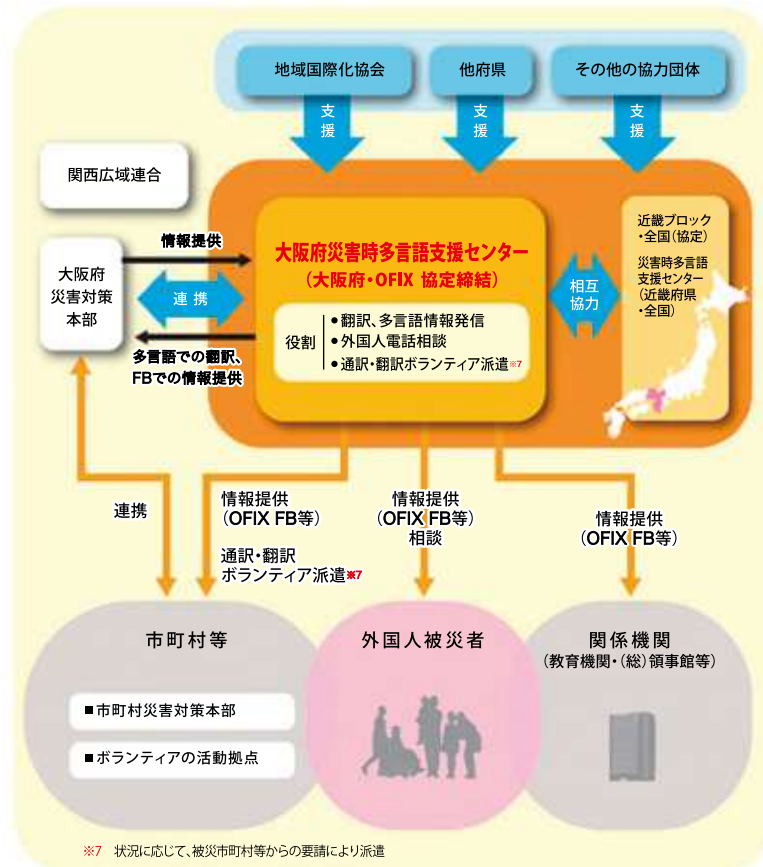
地域コミュニティや支援組織・機関が、外国人にとってもいざという時に頼りになる存在になったり、外国人が、避難所にスムーズに避難したり、協力して避難所を運営したりするためには、外国人と日本人が、地域社会のつながりをともに知ることが大事です。小学校区単位の各種活動やPTA、自治会、行政、外国人支援組織などが、日常生活においてどんな役割を果たす存在なのか、外国人と日本人がお互いに知り合うことから始めましょう。



「外国人の困りごとを解決する/減らす」ために必要な役割 (作成：本事業外国人支援研究会)

地域の状況と災害時の外国人への対応について

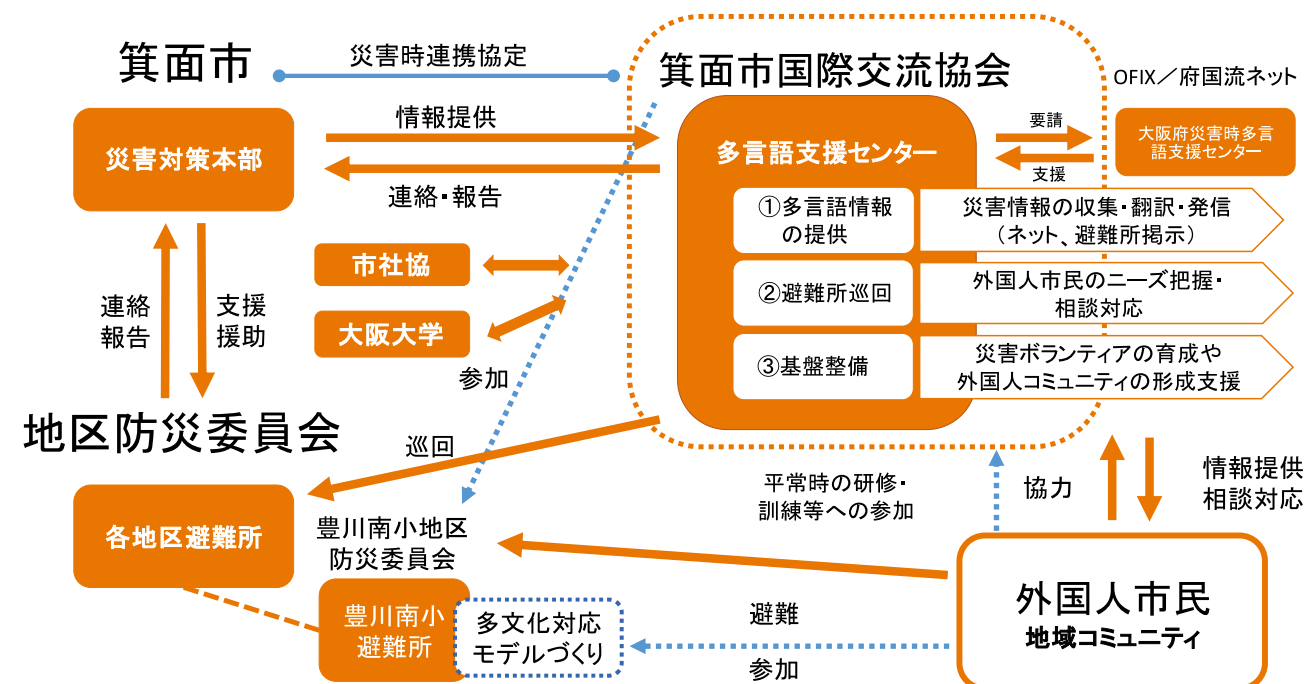
現状の仕組み＝大阪府と大阪府国際交流財団（OFIX）による災害時の多言語支援体制



出典：大阪府国際交流財団ウェブサイト
「災害時外国人支援体制」ページから
<http://www.ofix.or.jp/accept/disastersupport.html>

大阪府箕面市を事例に、大阪府北部地震の経験を踏まえた、外国人支援体制の提案

行政や関係機関のフォーマル支援に加えて、地区防災委員や外国人コミュニティなど、市民によるインフォーマル支援も大事。



主に大阪のツールや資料を掲載していますが、全国の自治体や団体がさまざまな情報を発信しています。ぜひ地元の情報を探してみてください。

<防災情報>

- 公益財団法人大阪国際交流センター 災害多言語支援センター
<https://multilingual-support-center.iho-server.com/>
- 公益財団法人大阪府国際交流財団 災害時外国人支援体制「外国人のための防災ガイド」
<http://www.ofix.or.jp/accept/disastersupport.html>
- ポータルサイト「おおさか防災ネット」
<http://www.osaka-bousai.net/pref/index.html>

<やさしい日本語関連のサイト>

- 弘前大学人文学部社会言語学研究室
増補版 災害が起こったときの外国人を助けるためのマニュアル「やさしい日本語のガイドライン」など
<http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/zouhomanual-top.html>
※2020年1月17日以降はアクセスできなくなります。
- 「やさしい日本語」有志の会
（「やさしい日本語」の講習会や外国籍住民向け防災講座、「やさしい日本語」勉強会の実施）
<http://nihon5bousai.web.fc2.com/>
- NHK NEWS WEB EASY やさしい日本語で書いたニュース
<https://www3.nhk.or.jp/news/easy/>
- やさしい日本語スマートフォン用アプリ（愛知）
<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/tabunka/0000059054.html>

<関連団体>

- 特定非営利活動法人多文化共生マネージャー全国協議会
<https://www.npotabumane.com/>
- 一般財団法人自治体国際化協会（CLAIR / クレア）
「災害時多言語情報」
<http://dis.clair.or.jp/>



多言語シートが公開されており、分類、フリーワード検索、ダウンロード、印刷して使用できます。



災害時多言語支援啓発動画（YouTube）が紹介されています。

「やさしい日本語」とは、普通の日本語よりも簡単で、外国人もわかりやすい日本語のこと。これは、地震などの災害が起こったときに有効なこととなります。また、複雑な文章の構造や難しい外来語などは使用していないため、外国人だけでなく、小さな子どもや障害のある人にも伝わりやすくなると言われています。

コミュニケーション
をとる上での
注意点

- ・必ずしも、すべてのことばを「やさしい日本語」にする必要ではありません。
- ・すべてのことばに対して「やさしい日本語」の決まった言い方があるということではありません。一番大切なことは、どうすれば伝わりやすいか「相手の立場に立って考える」こと。会話においては、「相手を思いやる態度」です。
- ・その時その時に合わせて、相手の様子を見ながら使うようにすると良いです。

例えば…

- ☆ 情報を取捨選択し、説明は短く簡潔に（なるべく一文を短く）
- ☆ 結論や大切な情報は、なるべく最初を書く・伝える
- ☆ 会話の途中で「わかりますか？」と確認する（※会話の場合）
- ☆ わかっていないと感じたら、別の言い換えを行う（※会話の場合）
- ☆ 相手の表情や反応を見ながら話す（※会話の場合）
- ☆ ゆっくりはっきり発音する（※会話の場合）
- ☆ 資料や図・イラストを活用する
- ☆ 難しい単語や言い回しは使わない
- ☆ 漢字などにはひらがなでルビを振る（※書き換える場合）

参考：豊橋市文化市民部多文化共生・国際課 発行『「やさしい日本語」を使ってみよう！』2015 年

「やさしい日本語」
を作るとき
の注意点

- ・「やさしい日本語」では、日本語能力試験 3 級レベルを基準としているので、使用できる語彙が限られています。
- ・一文一文を短くする必要があるため、伝えられる情報が限られます。
- ・「やさしい日本語」を使って情報を提供するときは、いつ何を伝えるのかを把握しておかなければなりません。
- ・「普通の日本語」を「やさしい日本語」にする場合は、「普通の日本語」文を一語一語に対応させて、忠実に翻訳するのではなく、内容の要点だけを翻訳した方がうまくいきます。
- ・「やさしい日本語」での表現は、日本語話者にとって不自然に感じる場合がありますが、その方が外国人にとってはわかりやすい場合があります。

参考：弘前大学人文学部社会言語学研究室「やさしい日本語」の作り方
<http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/EJ9tsukurikata2.htm>
※ 2020 年 1 月 17 日以降はアクセスできなくなります。

「やさしい日本語」
にするための
12 の規則

- （1）難しいことばを避け、簡単な語を使ってください
- （2）1 文を短くして文の構造を簡単にします。文は「分かち書き※」にして、ことばのまとまりを認識しやすくしてください

※「分かち書き」とは？
・文節の切れ目ごとに余白を空けることです。分かち書きにすることで、外国人は文の意味を理解しやすくなります。

＜分かち書きの文章の作り方＞

- ①まず文を文節で区切ります。文を文節で区切るときは、文の途中に「ね」などのことばを入れて切ってもおかしくないところで区切ります

例：今日きょう、朝あさ地震しんがありました
↓
今日きょうね 朝あさね 地震しんがね ありました

- ②文節で区切ることができたら、区切ったところに余白をあけます。そうすると、分かち書きの文章ができます

例：今日きょう 朝あさ 地震しんが ありました

参照：『「やさしい日本語」のための分かち書きルール』
<http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/EJ-wakatigaki.html>

（3）災害時によく使われることば、知っておいた方がよいと思われることばはそのまま使ってください

- ・日本語に不慣れな外国人にとって難しいと思われることばでも、災害時にはよく使われます。そのため、知っておいた方がよいと思われることばはそのまま使い、そのことばの後に＜＞を使って言いかえを表記してください。

例えば…

- 「消防車」→ 消しょう防ぼう車しゃ ＜火ひを 消けす 車くるま＞
- 「余震」→ 余よ震しん ＜後あとから 来くる 地震しん＞
- 「避難所」→ 避ひ難なん所じょ ＜みんなが 逃にげる ところ＞
- 「炊き出し」→ 炊たき出だし ＜温あたかい 食たべ物ものを 作つくって 配くばる＞
- 「津波」→ 津つ波なみ ＜とても 高たかい 波なみ＞

（4）カタカナ外来語はなるべく使わないでください

（5）ローマ字は使わないでください

（6）擬態語や擬音語は使わないでください

- ・日本語で使用される擬態語（めっちゃめっちゃ、どきどきなど）や擬音語（ドンドン、ガシャンなど）は、日本語話者以外には伝わりにくい表現です。使用を避けてください。

（7）使用する漢字や、漢字の使用量に注意してください。すべての漢字にルビ（ふりがな）を振ってください



(8) 時間や年月日を外国人にも伝わる表記にしてください

- ・①時間は 12 時間表記、②時間を表す助詞は、記号「～」ではなく、「…から」に統一、
- ③年月日の表記にはスラッシュ「／」を使わない、④元号は使わないで、西暦で書く。

(9) 動詞を名詞化したものはわかりにくいので、できるだけ動詞文にしてください

(10) あいまいな表現は避けてください

- ・「おそらく・・・」「たぶん・・・」などの表現は、使わない。

(11) 二重否定の表現は避けてください

- ・「通れないことはない」「使えないわけではない」などの二重否定の表現は、外国人だけでなく、日本人にとっても混乱を起こしやすい表現。
- 例：通れないことはない→通^{とお}ることが^が できます

(12) 文末表現はなるべく統一するようにしてください

出典：弘前大学人文学部社会言語学研究室「やさしい日本語」の作り方（前掲）から引用

「やさしい日本語」
の例

語彙	「やさしい日本語」表現
【あ行】	
安否を確認する	かぞく 家族や ともだち 友達が だいじょうぶ 大丈夫か しら 調べます
収まる	お 終わる
襲う	く 来る
【か行】	
懐中電灯	て 手に も 持つ でんき 電気（電灯）のあか 明り
救急車	きゅうきゅうしゃ 救急車 <びょうき 病気や ケガをしたひと 人を たす 助ける くるま 車>
給水	みず 水を もらうこと／水を もらう ところ
汲む	みず 水を い 入れる
グラウンド	そと 外で うんどう 運動する ひろい 広い ところ

警戒する	とても き 気をつけます
洪水	あめ 雨が たくさん 降 ^ふ ったりして、かわ 川の みず 水が みち 道や いえ 家の なか 中に くること
校庭	がっこう 学校の たてもの 建物の そと 外にある ひろい 広い ところ
【さ行】	
叫ぶ	おお 大きい こえ 声で い 言う
下敷き	たお 倒れた たてもの 建物などの した 下に なること（けがを した ひと 人が います）
消火器	ひ 火を け 消す どうぐ 道具
浸水	いえ 家の なか 中に みず 水が はい 入ること
【た行】	
高潮	うみ 海の みず 水が たか 高くなること
注意報	あめ 雨や かぜ 風が つよ 強いとき ひとびと 人々に ちゅうい 注意する おし 知らせ
倒壊する	いえ 家や ビルが こわ 壊れること
【は行】	
被害	いえ 家や ものが こわ 壊れる
避難（避難する）	あぶなく ない ところに にげ 逃げる
避難勧告	あめ 雨や かぜ 風が つよ 強いとき あぶなく ない ところに いくように い 言うこと
避難所	たいふう 台風や じしん 地震などのとき、に 逃げる あんぜん 安全な ところ
無事	おお 大きな け が 怪我もなく い 生きていること
暴風雨	とても つよ 強い かぜ 風と あめ 雨
【ま行】	
マグニチュード	じしん 地震の おお 大きさを あらわす ことば
【や行】	
余震	よしん 余震 <あと 後から くる じしん 地震>

出典：『増補版 災害が起こったときに外国人を助けるためのマニュアル』『やさしい日本語』版災害基礎語彙 100、
京都府国際センター『外国人のための防災ガイドブック』を参考に、本事業外国人支援研究会が作成

災害時に外国人支援の大きなつながりを

災害時には、外国人は日本人以上に恐怖を感じています。一方で、外国人の苦しみをなんとかしたいと、がんばりすぎて苦しむ支援者が多くいらっしゃいます。

そんなとき、助けての声を挙げてください。支えたい人や団体は、被災地内外にたくさんいます。そういった人や団体と日常からやさしい日本語を学び、また災害時にもつながる場を作って、外国人支援の大きなつながりを作っていきましょう。

このハンドブックがその一助になれば幸いです。

跡見学園女子大学、一般社団法人福祉防災コミュニティ協会 鍵屋 一

協力者：災害時のスペシャルニーズ支援事業 外国人支援研究会

岩城 あすか （公益財団法人箕面市国際交流協会）
河合 将生 （office musubime）【研究会コーディネーター】
金 光敏 （特定非営利活動法人コリア NGO センター）
斎藤 裕子 （にほんごサポートひまわり会）
筒井 百合子 （特定非営利活動法人国際交流の会とよなか）
福留 まさ美 （出来島識字・日本語交流教室）
札葉 正隆 （特定非営利活動法人市岡国際教育協会）
丸山 敏夫 （大阪市内識字・日本語教室連絡会、浅香識字・日本語教室）
山野上 隆史 （公益財団法人とよなか国際交流協会）

監修

鍵屋 一 （跡見学園女子大学、一般社団法人福祉防災コミュニティ協会）

事務局

社会福祉法人大阪ボランティア協会

梅原 聡、岡村 こず恵、小林 政夫、永井 美佳、萬浪 侑子

2019年3月31日 発行

発行：社会福祉法人 大阪ボランティア協会

〒540-0012 大阪市中央区谷町2丁目2-20 2F 市民活動スクエア「CANVAS谷町」

TEL 06-6809-4901 FAX 06-6809-4902

Email office@osakavol.org URL <http://www.osakavol.org/>

印刷・製本：企業組合 ねっこの輪 イラスト：鈴木百合香・永田千砂
デザイン・編集協力：ちまちま工房